

國民會館設立趣意書

我が国の立憲政治は、時代の推移と共に形式的進歩の著しきものあるに反し、國民の智的進歩に至りては遅々として之に伴はず、政界の腐敗、政党不信の声を聞く所以なり。而して是れ實に政治家竝に一般國民の政治的無自覚と政治道德の欠如とに依る所にして之を救ふは政府又は政治家の任と云ふよりも寧ろ國民の自発的に行ふ可き急務なりと信ぜらる。然るに世上、その必要を叫ぶ声のみ徒らに高くして、然も其の實行に至りては未だ曙光すら発見する能はざるは何ぞや。事の難きにあらざるなり、人の之を行はざるなり。即ち政治教育の殿堂として國民會館を設立するの趣意は、畢竟國民をして自ら政治教育運動に携はらしむるの端緒を作り以て我が国立憲政治百年の大計を樹立せんが為め敢て実行の第一歩を成さんとするに外ならざる所以を茲に明にするものなり。

昭和七年拾月吉日

武藤山治